



農林水産省 近畿農政局 業務説明会

農林水産省
近畿農政局



農林水産省で働くとは

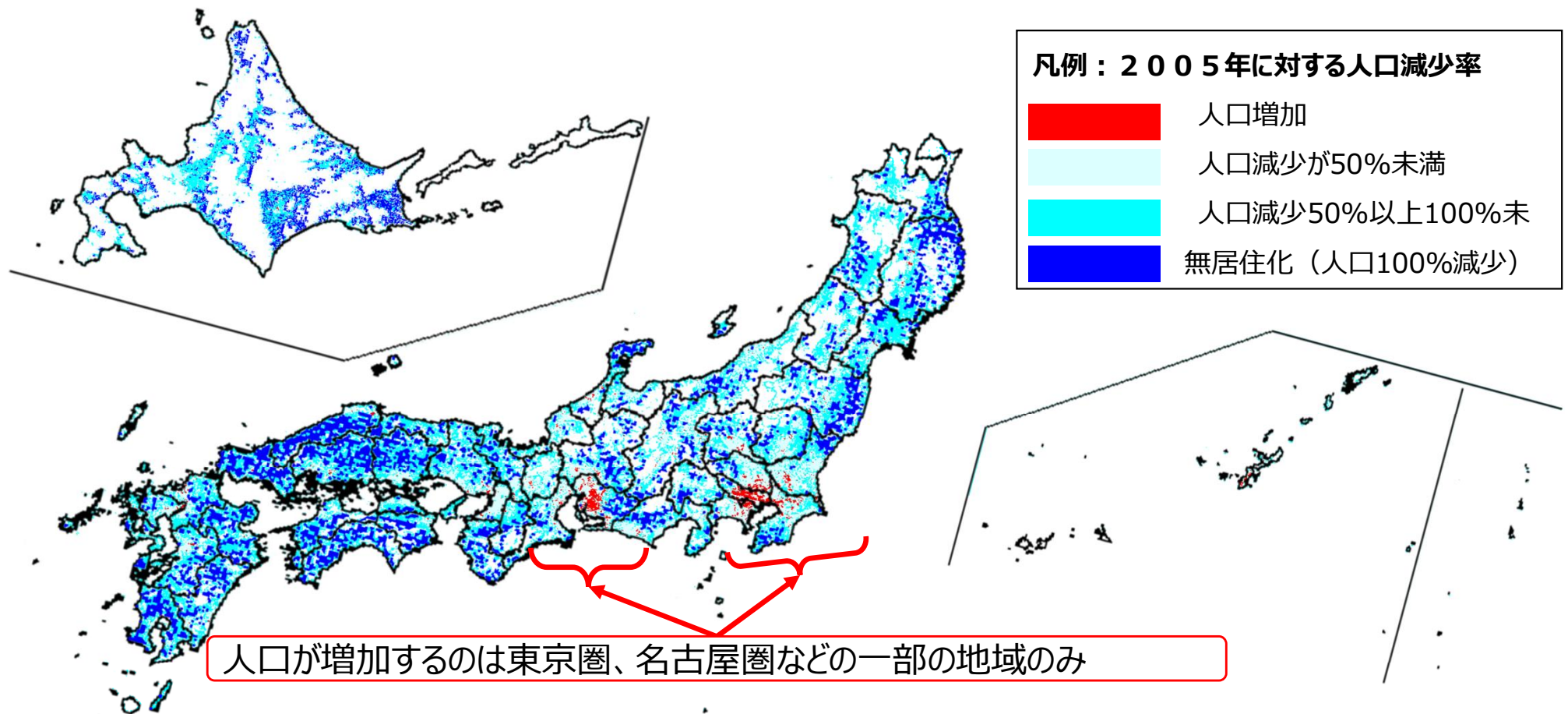
農林水産省近畿農政局

今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率が日本全体の人口減少につながっている。



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

- 人口減少、過疎化は地方だけではなく日本全体の課題

過疎化・人口減少の加速化による**消費・経済力の低下**
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県（茨城・千葉・愛知）の割合は約13.7%

※平成29年度生産農業所得統計

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

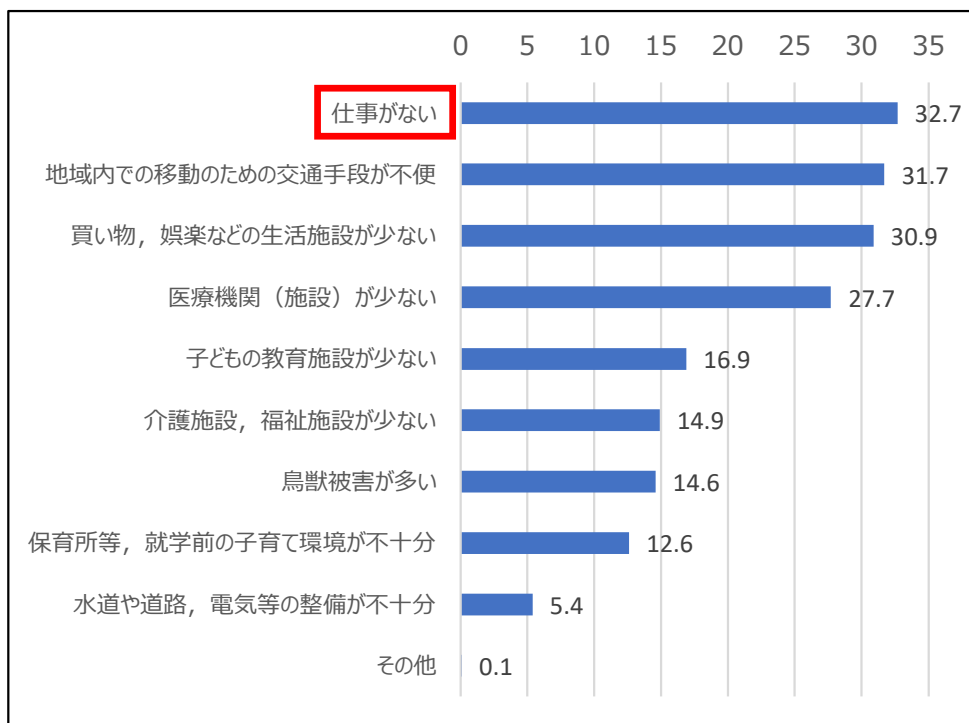
ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、観光資源の喪失

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

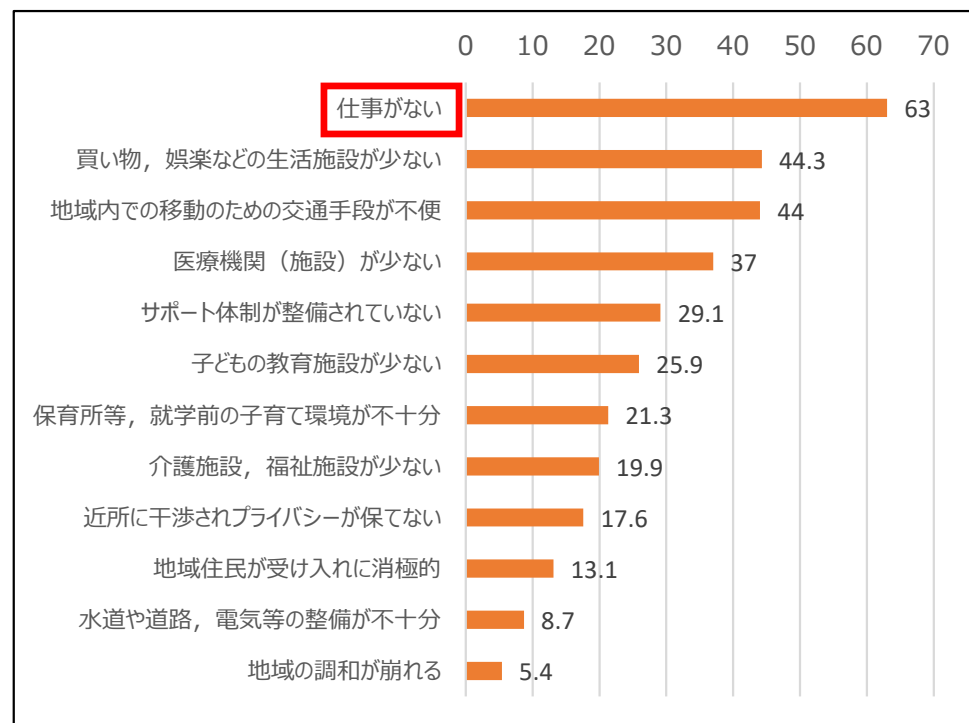
なぜ過疎化するのか

・農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



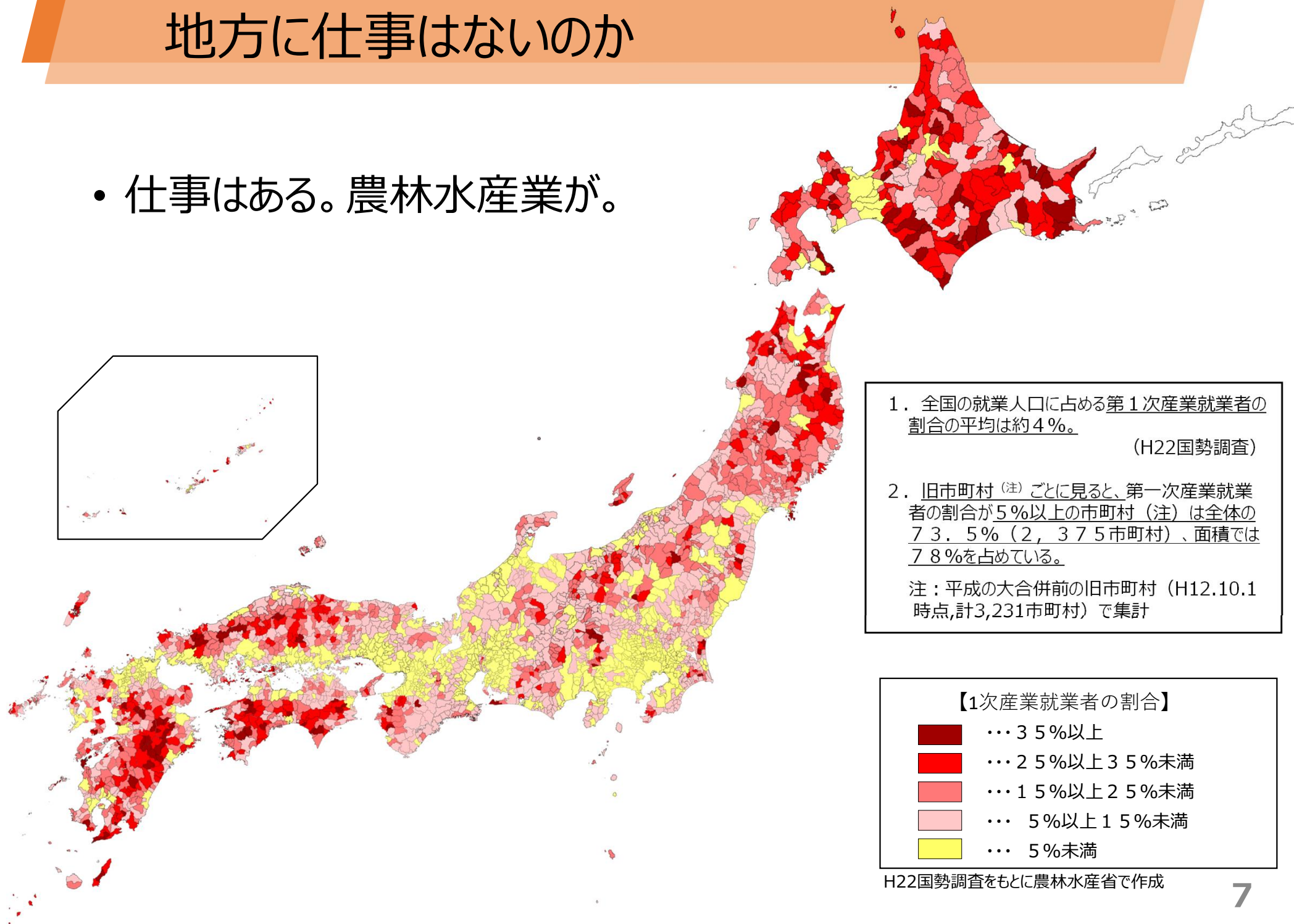
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

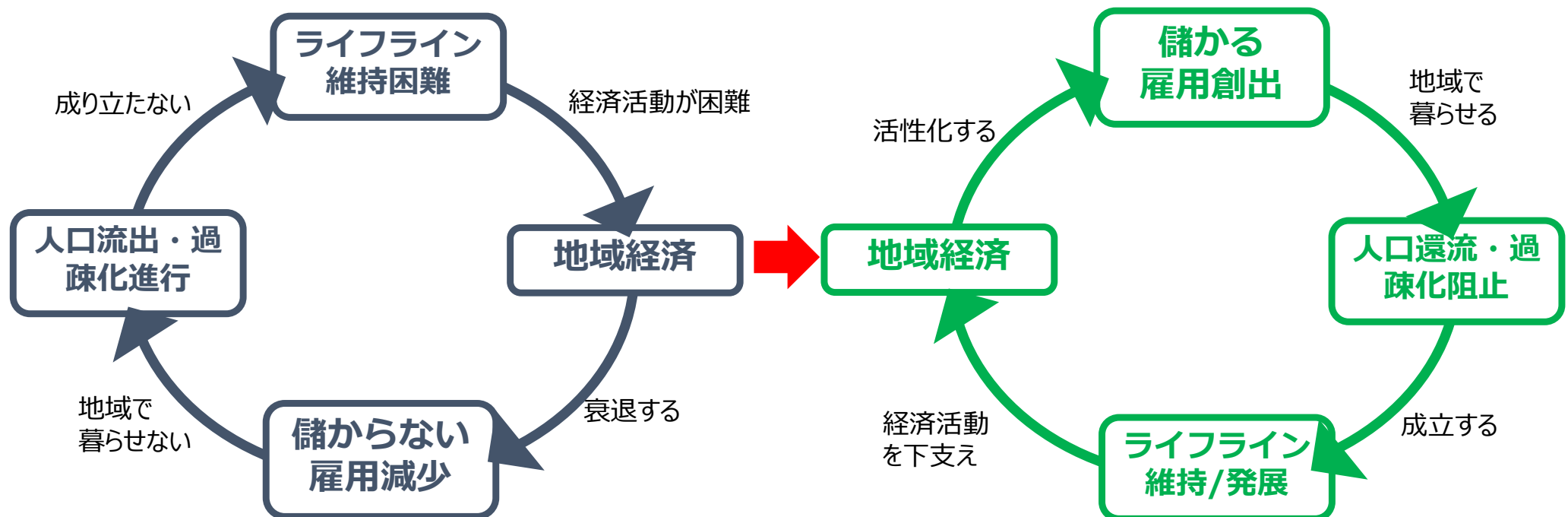
- 仕事はある。農林水産業が。



問題は、魅力的な就業先ではないこと

- 問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

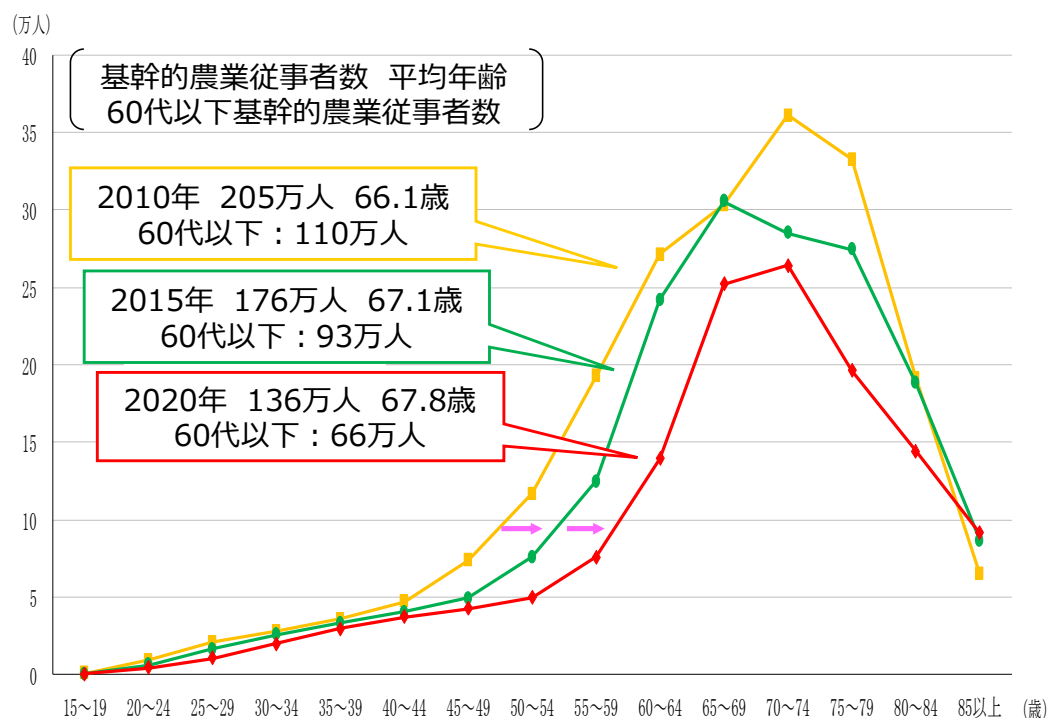
➡ 儲かっていない・十分な雇用を確保できない



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢67.8歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

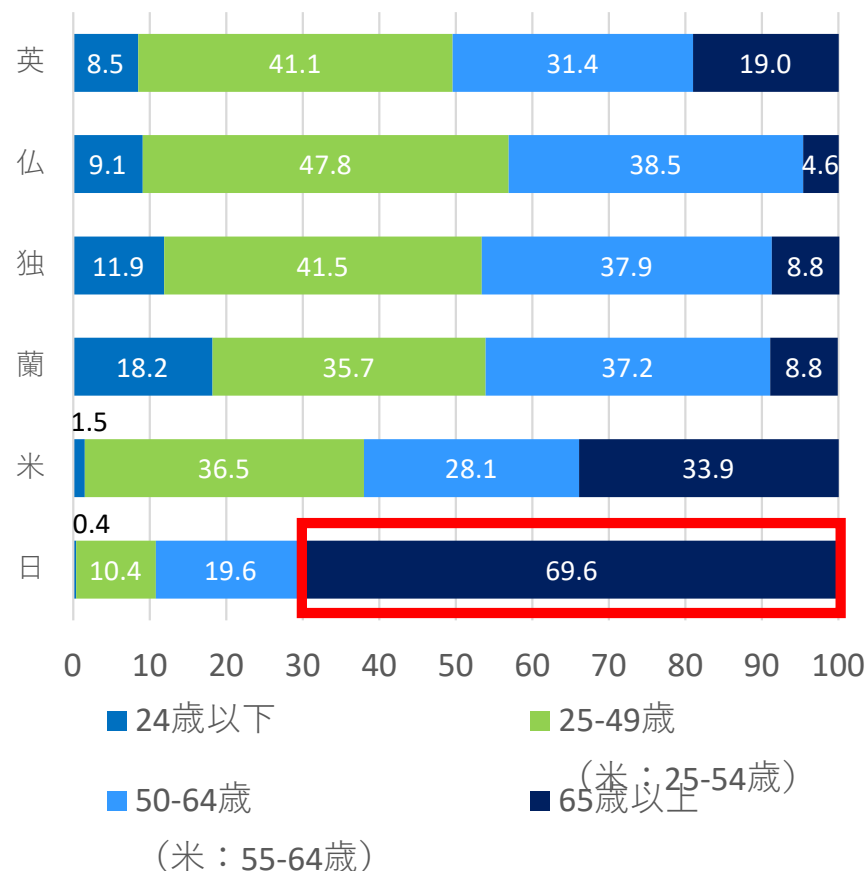
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

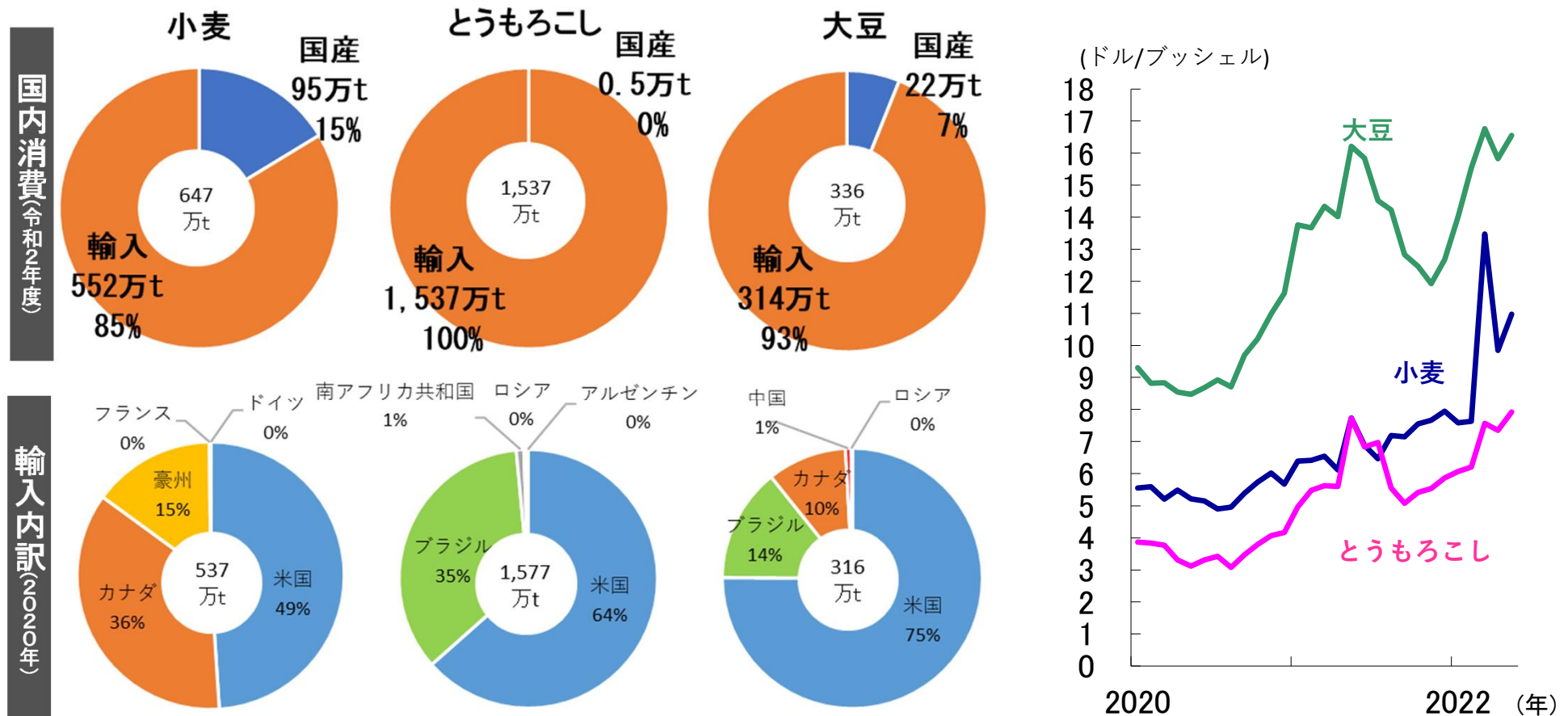


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
米は、米国農務省「2017年農業センサス」
: 農業に従事した世帯員
日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
: 基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく輸入に頼っている。一方で、気候変動や新興国の輸入需要の増加、ウクライナ情勢により、相場は高騰

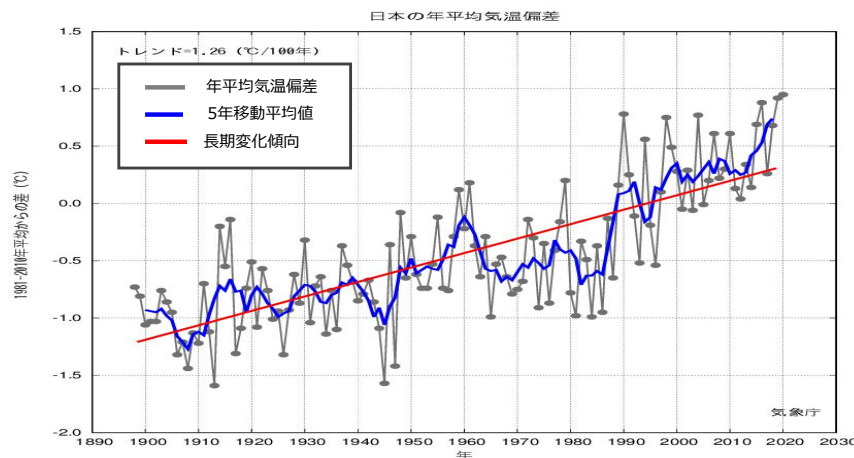


注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。
 注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年度）。
 輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。
 注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。
 注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費＝国内生産＋輸入と仮定。
 注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

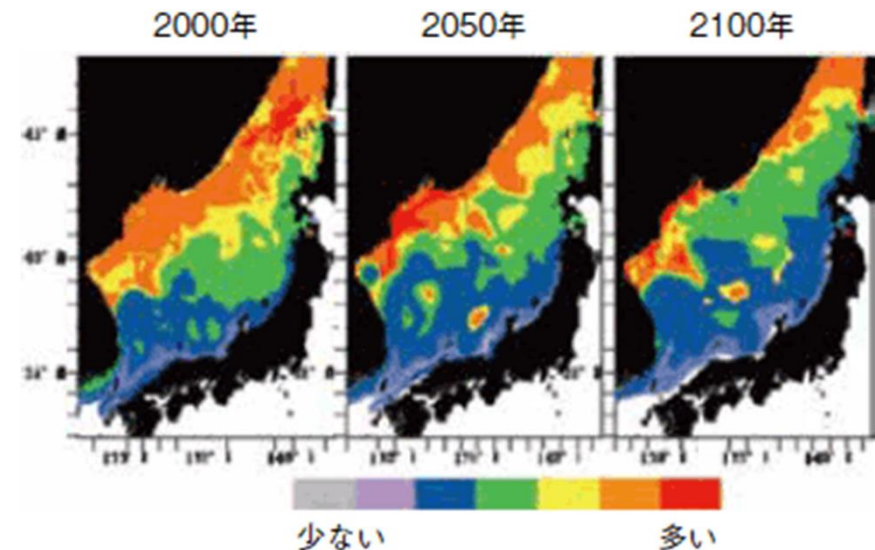
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26℃**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



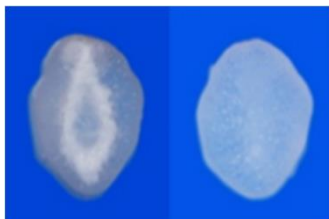
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稻：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題

2. 農林水産省のミッション

3. 農林水産省の職場環境

4. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

農林水産省は何のために存在しているか

- 農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

ビジョン

ミッション

農林水産省は何のために存在しているか

- 生命を支える「食」

→生命の維持・健康で充実した人生
のために必要不可欠な**食料**
生産現場から消費者の口に入るまで



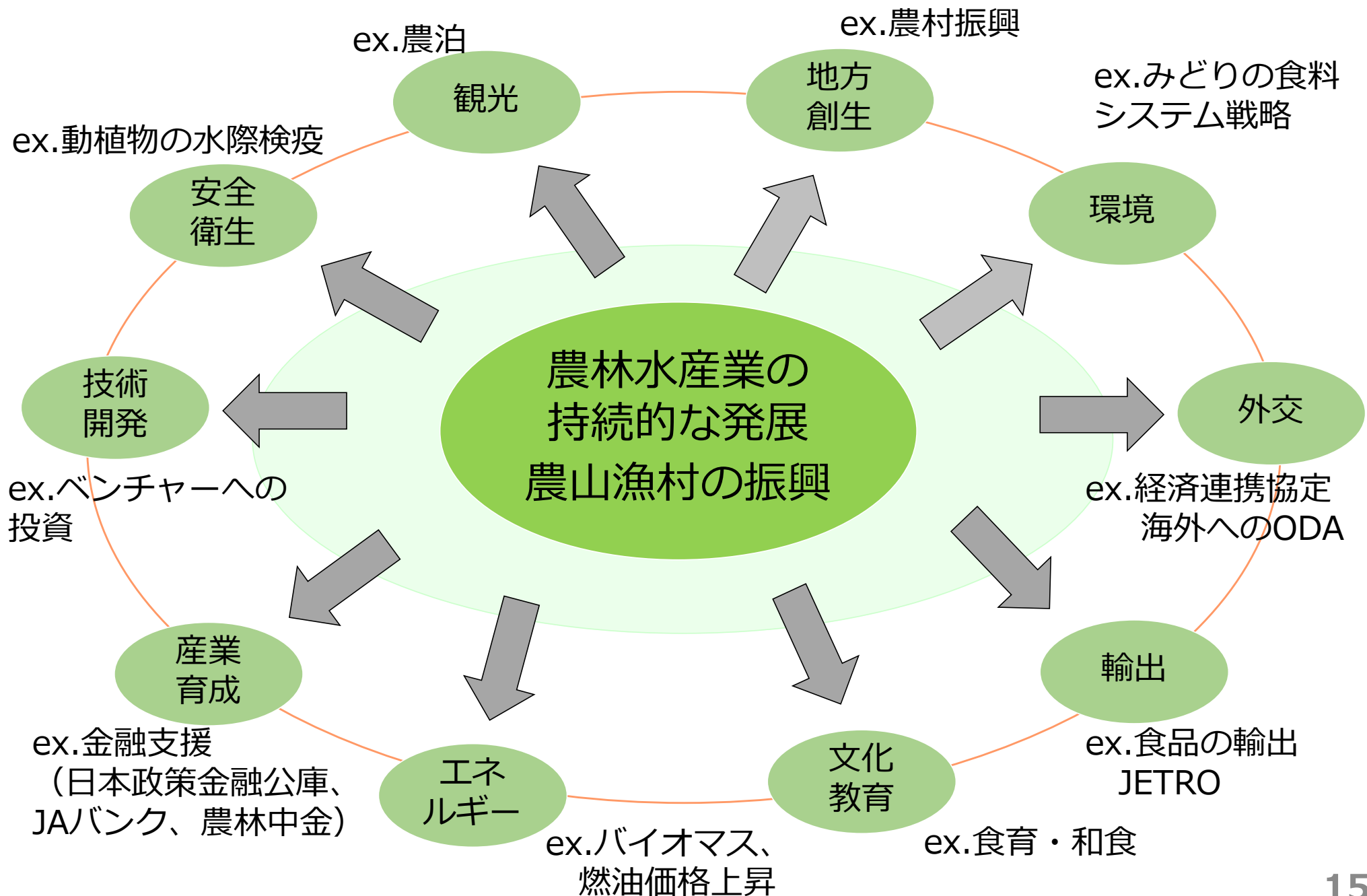
- 安心して暮らせる「環境」

→農林水産業・農山漁村の**多面的機能**
(国土の保全・防災、自然環境の保全、
良好な景観の形成、食文化・伝統芸能の伝承)
農林水産業を中心に営まれる**コミュニティ**
食を通じた**豊かな暮らし**



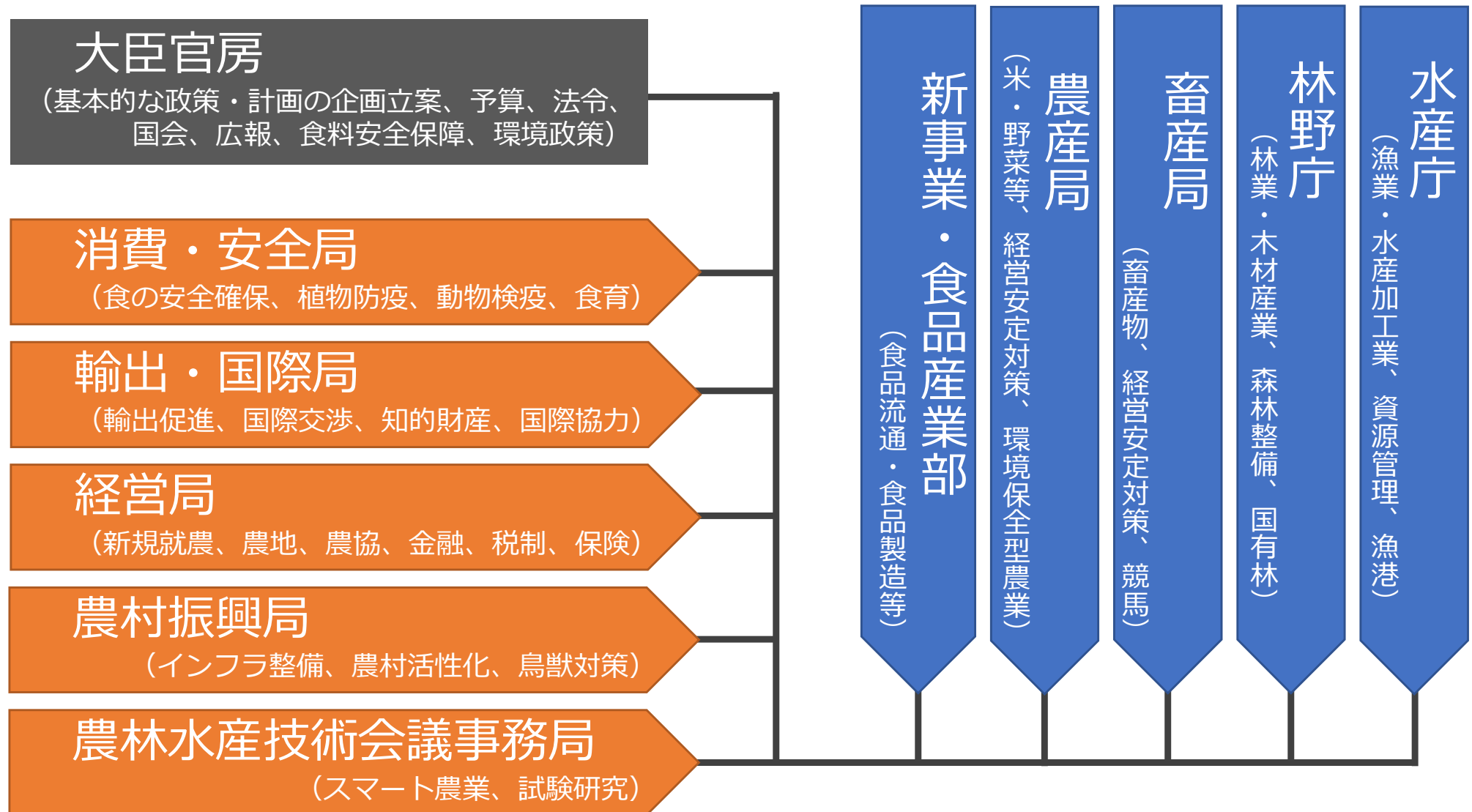
→それを今の私たちだけでなく、**未来にわたって受け継いでいく**

1次産業を核とした多様なフィールドと、 豊富なツール



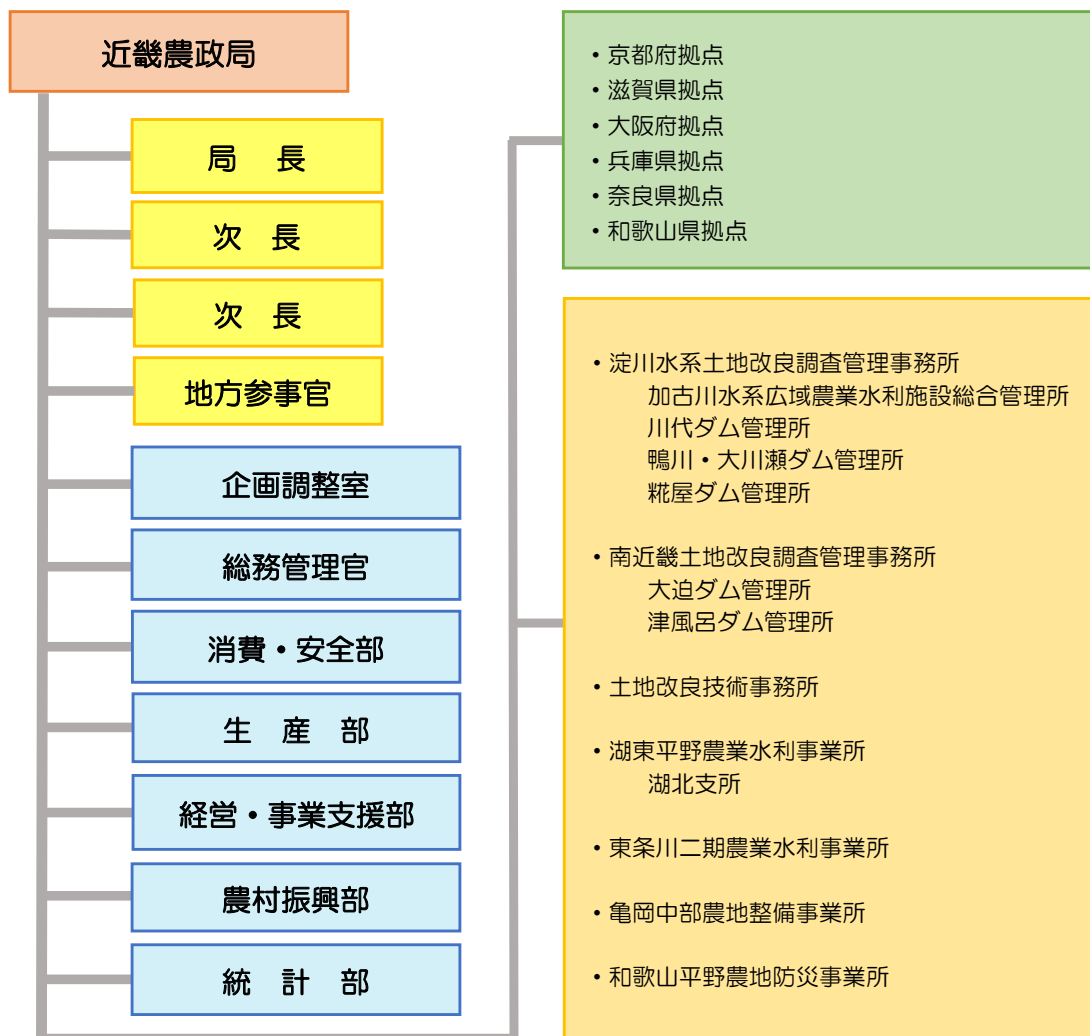
農林水産省の組織

それぞれの**品目**（米、肉、魚など）の産業振興を行いながら【縦軸】、
全ての品目に**共通する課題**（環境、防疫、国際交渉、新規就農、インフラ整備など）
については、品目横断的に政策を打ち出しています【横軸】。



近畿農政局の組織

組 織 図



近畿農政局管内機関位置図

(令和5年4月1日現在)

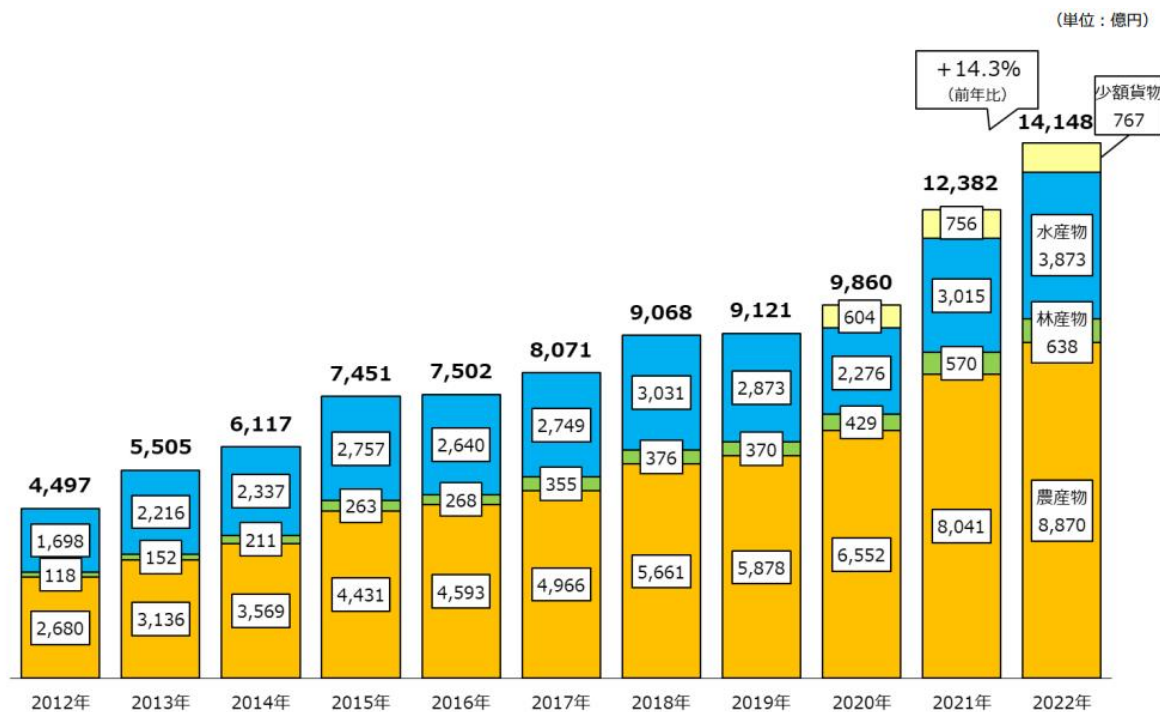


農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年 1 兆円目標を突破！
2030年輸出額 5 兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額

(単位：億円)



※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造 業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

<参考> 海外への日本食・食文化の普及の取組

1 日本産食材サポーター店認定制度



- 民間が主体となり、日本産食材を積極的に使用する海外のレストラン・小売店を「サポーター店」として認定する制度を推進。日本産農林水産物・食品のユーザーである飲食店等を「見える化」し海外需要を拡大することで、輸出促進を図る。
認定店舗数：8,565店（2022年9月末時点）（香港、中国、タイ、アメリカ、ベトナム、シンガポール、フランス等）
- 令和4年度は、JETROがサポーター店と連携して実施する日本産食材のプロモーション支援や、サポーター店への料理人派遣に関する支援事業を実施。

2 海外における日本食・食文化発信の担い手育成（外国人料理人の育成等）

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信し、我が国の食関連事業者等が海外展開をする際にパートナーとなり得る人材を育成。

- ①日本料理の調理技能認定制度
- ②日本食普及の親善大使を活用したセミナー及び料理講習会
- ③海外の外国人料理人を招へいした日本料理店研修
- ④外国人料理人による日本料理コンテスト

等



「日本食普及の親善大使」によるセミナー



日本料理店での研修



外国人料理人による日本料理コンテスト

3 トップセールスによる日本食・食文化の魅力発信

総理、大臣等の国際会議出席や出張等の機会に合わせ、日本産食材を活用したメニューのレセプションを実施。



国連総会
(2022年9月・NY)



和食レセプション
(2019年4月・ローマ)



ジャパンナイト
(2019年1月・ダボス)

4 日本食・食文化の紹介映像の制作、発信

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信する動画コンテンツ等を作成し、NHKワールドやTaste of Japan、maffchannel等で発信。



日本産食材サポーター店PR動画



日本食バーチャル体験コンテンツ



インフルエンサー等を活用した日本食文化・日本産品PR動画

農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

- AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



スマート農業の効果

- ① **作業の自動化**
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② **情報共有の簡易化**
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ **データの活用**
ドローン・衛星によるデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

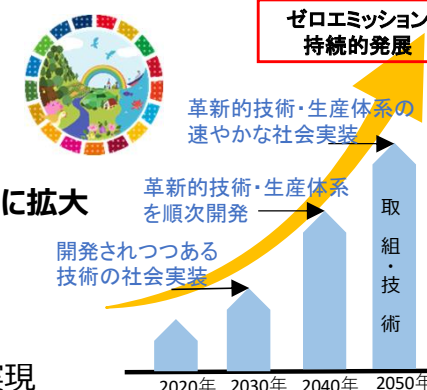
**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

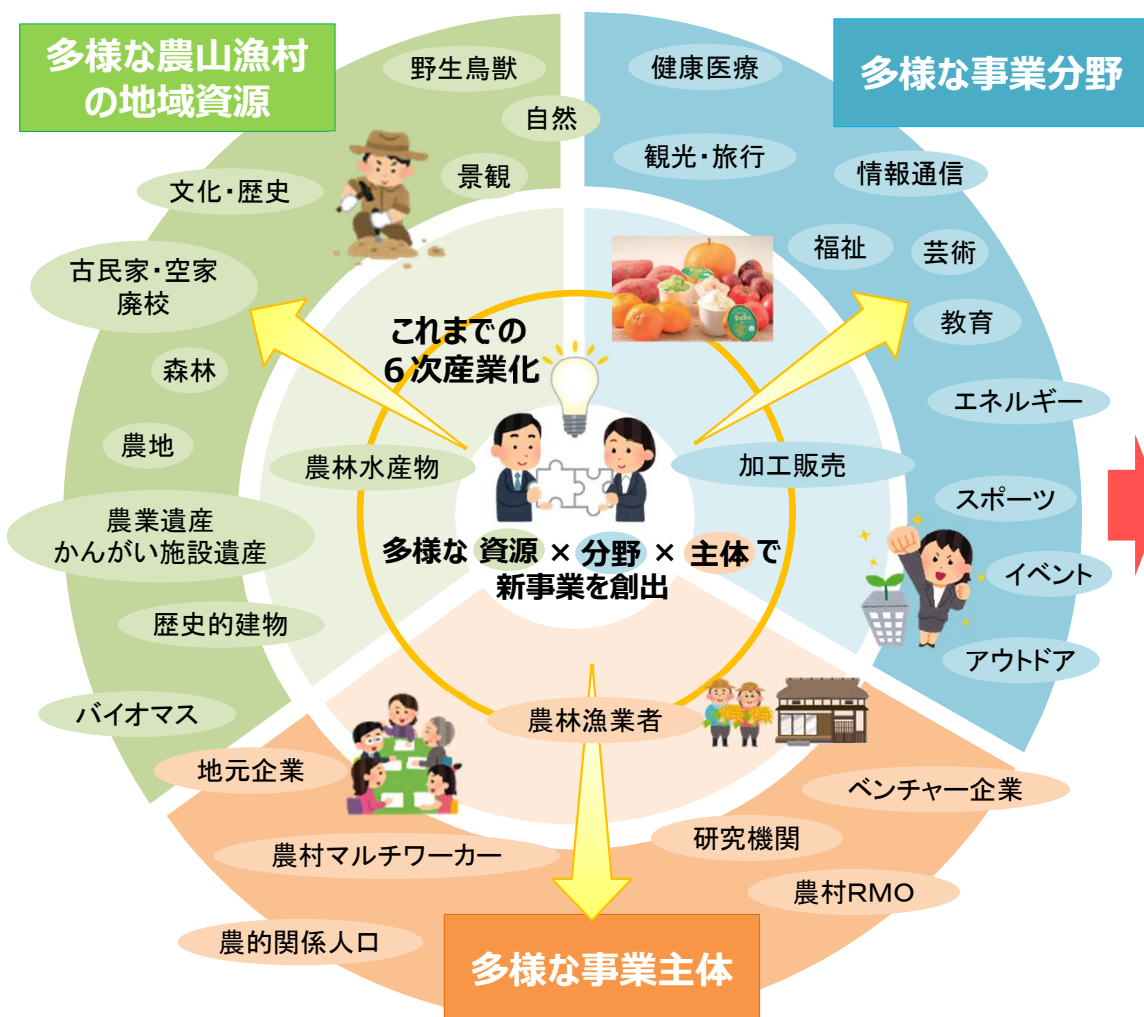
農山漁村発イノベーションによる雇用・所得の創出

- 「農山漁村発イノベーション」とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の**多様な地域資源**も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた**多様な主体の参画**によって**新事業や付加価値の創出**を図る取組です。

農山漁村発イノベーション

- 農山漁村の**あらゆる地域資源**をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など**他分野との連携**を一層促進

地域資源と事業分野、事業主体を組み合わせ、**新事業や付加価値を創出**



<例 1>

農産物、景観 × 加工販売、観光・旅行
× 農林漁業者、地元企業
= **竹林景観を活かした映画のロケ地や観光商品化**

<例 2>

森林 × スポーツ × ベンチャー企業
= **森林サバイバルゲーム**

<例 3>

農産物 × 加工販売、観光旅行、教育
× 農林漁業者、地元企業
= **農業交流拠点を核とした6次産業化、食育体験**

<例 4>

森林 × 観光・旅行、健康医療
× 農林漁業者、地元企業
= **森林セラピー**

<例 5>

農業遺産、文化・歴史 × 加工販売、観光・旅行
× 協議会（農林漁業者、地元企業等）
= **農業遺産を核とした6次産業化、観光振興**

「デジ活」中山間地域について

- 「デジ活」中山間地域とは、地域の基幹産業である農林水産業を軸として、地域資源やAI、ICT等のデジタル技術の活用により、課題解決に向けて取組を積み重ねることで、活性化を図る地域づくりを目指す地域。
- こういった地域で活動する意欲的な農村型地域運営組織（農村RMO）等 ※）に対して、関係府省連携チームでサポート。

中山間地域におけるデジ活のイメージ

農林水産業

【地域の課題】

- 一次産業従事者の減少、高齢化
- 省力化、効率化



- 省力化のためのスマート農林水産業の導入
- 農地の環境維持の負担軽減のための自動草刈り機導入
- ICTを活用したスマート鳥獣対策

基幹産業を軸として
+
デジタル技術を活用

交通、物流

【地域の課題】

- 公共交通の確保
- 物流の効率化



- 交通空白地帯の解消や利便性の向上に向けて、MaaSの活用、貨客混載バス、ドローンによるラストワンマイル配送

地域資源活用

【地域の課題】

- 付加価値の向上
- 観光等域外からの訪問の促進



- ICTを活用し、農産物の需要に応じた集出荷
- デジタル環境の整備により、農泊地域での新たな需要の開拓

くらし

【地域の課題】

- 情報格差の解消
- 高齢者の買物支援



- ICTを活用した地域情報網の構築、高齢者の買物支援や見守り

関係府省連携チームでサポート

（関連施策一覧の公表、課題に対する施策の紹介、申請相談等）

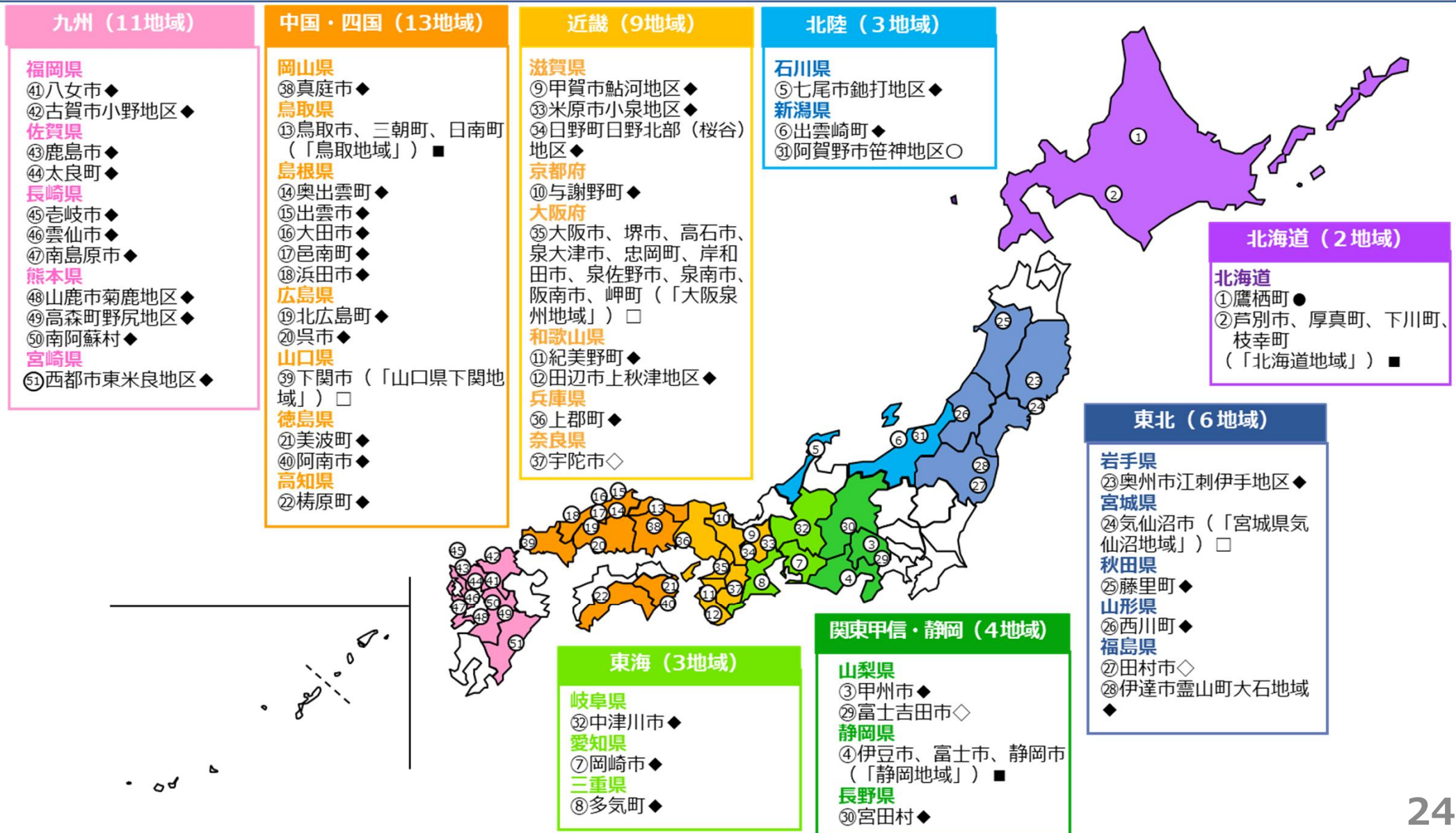
※農村型地域運営組織モデル形成支援、元気な地域創出モデル支援、過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ：小さな拠点）、デジタル林業戦略拠点構築推進事業、デジタル水産業戦略拠点整備推進事業、無人航空機等を活用したラストワンマイル配送実証事業、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）から応募

「デジ活」中山間地域の登録状況

32道府県51地域 (2023年10月13日時点)

デジタル田園都市国家構想総合戦略におけるKPI：2027年度までに150地域登録

●デジタル田園都市国家構想交付金：1地域、○過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業：1地域、◆農山漁村振興交付金事業：40地域、
■デジタル林業戦略拠点構築推進事業：3地域、□デジタル水産業戦略拠点整備推進事業：3地域、◇地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転実証調査事業）：3地域

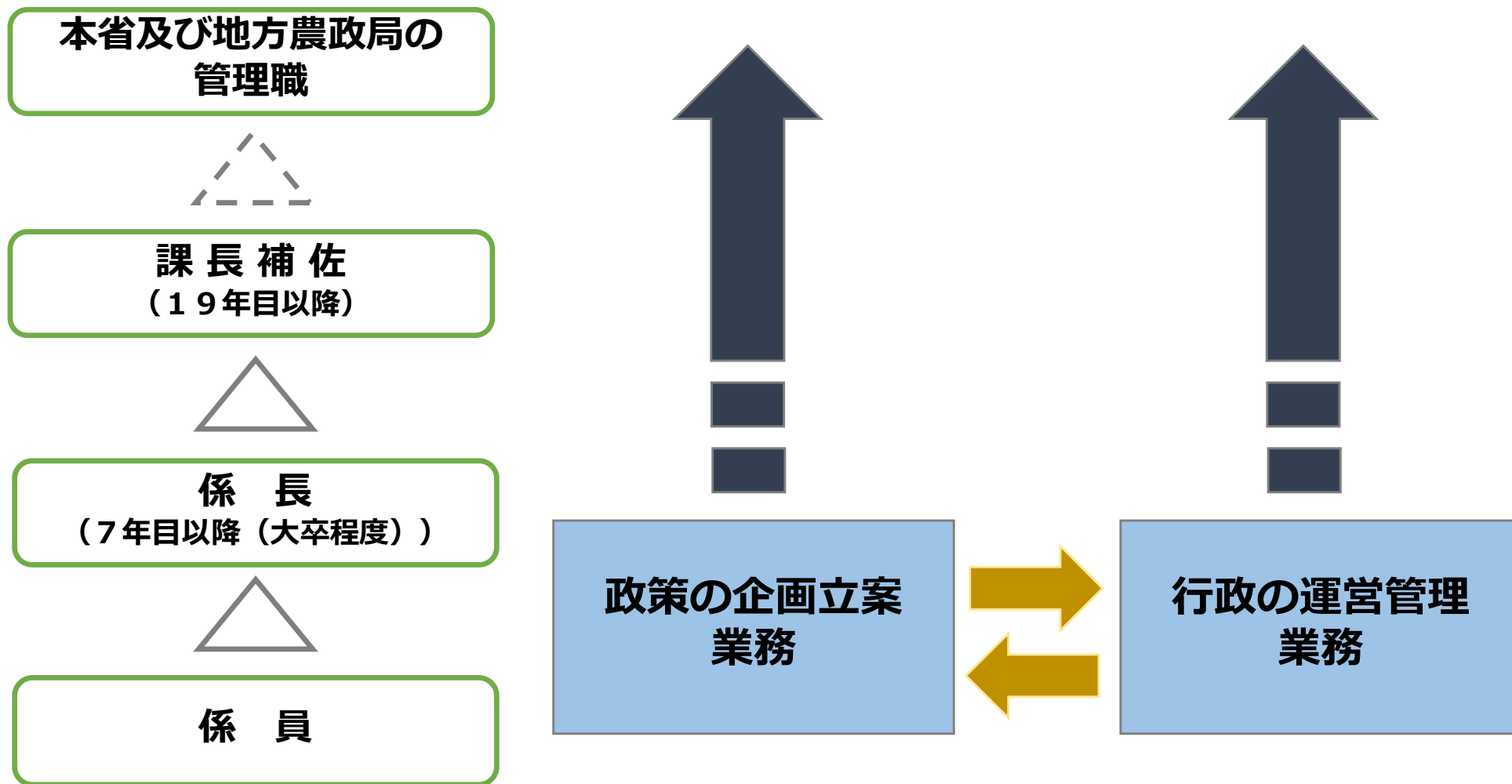


今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. (参考) 近畿農政局若手職員紹介

キャリアパス（一般職行政（近畿農政局採用））

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。ただし、一度は本省での業務経験をしていただきます。
- ▼ 10年目程度まで、本人の希望を踏まえた上で、概ね2年程度で様々なポストを経験していただきながら、将来的に、自分にあった分野のスペシャリストになってもらいます。



本省の配属例

政策の企画立案業務

・国際関係業務



(輸出・国際局国際戦略グループ
R2入省 Uさん)

- ・G7・G20等の多国間国際会議での交渉（現地出張）、他省庁・在外公館・省内関係部署との連絡調整を行う。
- ・2023年は日本がG7議長国であり、4月に開催されたG7宮崎農業大臣会合の開催準備を行った。

・果樹の生産振興



(農産局果樹・茶グループ果樹振興班
経営指導係 R3入省 Oさん)

- ・果樹の生産振興に係る事業の運用や、研究事業、表彰行事、PR活動の推進などを行う。
- ・果樹の生産基盤強化のため、生産者などにヒアリングを行い課題を見つけ、事業の検討を行う。R4年度は担い手確保をテーマにシンポジウムを開催した。

・歴史まちづくりの推進



(農村振興局農村政策部農村計画課
土地利用計画班土地利用推進係
R3入省 Tさん)

- ・国交省及び文化庁と3省合同で週1～2回程度の市町村ヒアリングを行い、農業に関する部分の計画の確認や助言等を行う。
- ・計画に位置づけられた歴史的価値の高い農業水利施設等の現地視察や計画書の認定に係る手続きを行う。

行政の運営管理業務

・総括・国会業務 (消費・安全局総務課総括班総括係 R3入省 Kさん)



・局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。

・国会議員への説明対応や質問に対する答弁参考資料の局内調整を行う。

・予算・会計業務 (畜産局総務課会計班予算第1係 R4入省 Tさん)



・各事業の所要額を精査し、財務省に対して、予算要求を行う。また、その査定内容に基づき予算書を作成し、国会に提出する。

・予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。

・人事・採用業務 (大臣官房秘書課任用班 任用総括第1係R1入省 Kさん)



・人事異動に伴う辞令を作成、他省庁や自治体等との人事交流の連絡等を行う。

・新規採用に向けた業務説明会やパンフレット作成等の広報業務や官庁訪問等の採用事務を実施する。

近畿農政局の配属例

・食品表示監視等



(近畿農政局消費・安全部)

- ・食品表示等についての監視、疑義情報受付立入検査など

・農地関係業務

(近畿農政局経営・事業支援部)

- ・担い手への農地集積・集約化の加速化(府県の取組のフォローアップなど)

・輸出関係業務



(近畿農政局経営・事業支援部輸出促進課)

- ・農林水産物及び食品の輸出に関する相談受付、情報提供
- ・輸出証明書の審査・発行
- ・地理的表示(GI)産品の登録に向けた手続き

・農山漁村の活性化



(近畿農政局農村振興部)

- ・農山漁村が持つ豊かな地域資源を活用した新事業や付加価値の創出、観光・福祉・教育等と連携した取組等への支援(農泊、農福連携)

・企画・広報業務



(近畿農政局企画調整室)

- ・局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- ・近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

・予算・会計業務



(近畿農政局会計課)

- ・事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- ・予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- ・会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

・人事・採用業務



(近畿農政局総務課人事第1係)

- ・人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- ・新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

若手がどんどん行動しています

• BUZZ MAFF

【設立】2020年1月7日

【チャンネル登録者】17.4万人

農林水産省職員自らが、YouTuberとなり担当業務にとらわれず、**スキルや個性**を活かして、農林水産省や日本の農林水産業の魅力を発信するプロジェクト。

省内公募で選ばれたチームが日替わりで発信しています。

近畿農政局では、局内の若手職員を中心としたチーム「**となりの近畿**」を結成し、近畿農業の魅力を発信しています。



BUZZMAFF ばずまふ（農林水産省）

@BUZZMAFF - チャンネル登録者数 17.4万人・1535本の動画

農林水産省職員が、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良...

チャンネル登録



人材育成・研修

現場を知る

○ 新規採用者研修

入省1年目の職員を対象に4月に合宿形式により行われます。公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識を講義形式で学ぶ【高尾コース】と、ほ場での実習や先進的な生産現場における現地研修を行う【つくばコース】の2本立てで実施しています。



○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて農業・農村の現場を肌で感じることを目的とします。入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に密着し、農作業体験の充実を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場の声を踏まえた施策を企画・推進するため、管内各部の幹部による講演や、外部講師を招いた講演などを行っています。

また、現場においてふさわしい礼儀作法を身につけることを目的に、ビジネスマナー研修も実施しています。



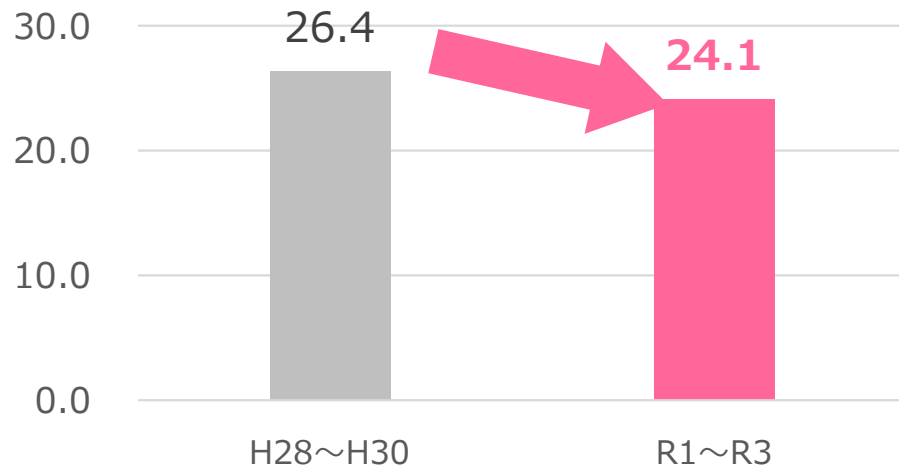
○ シンポジウム、セミナー

近畿農政局が主催する「和食シンポジウム」、「食育シンポジウム」などのシンポジウムや各種セミナーにも参加できます。

職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

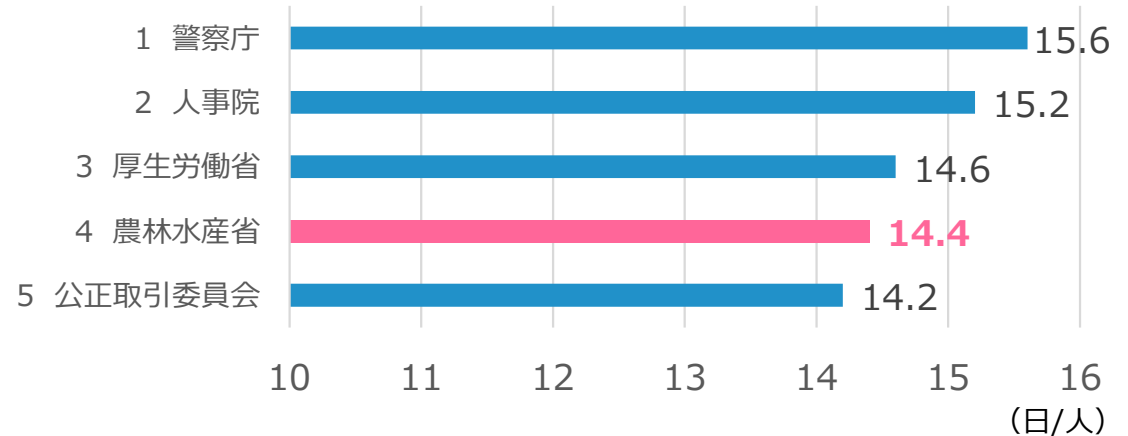
本省 （常勤職員）	25.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.5時間
合 計	11.1時間

※令和3年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で4番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター



省内の働き方改革などを進めています

男女ともに、子育てしながら働くのが当たり前の職場です。

育休取得率

男性：81.3%、女性：102.7%

(参考)

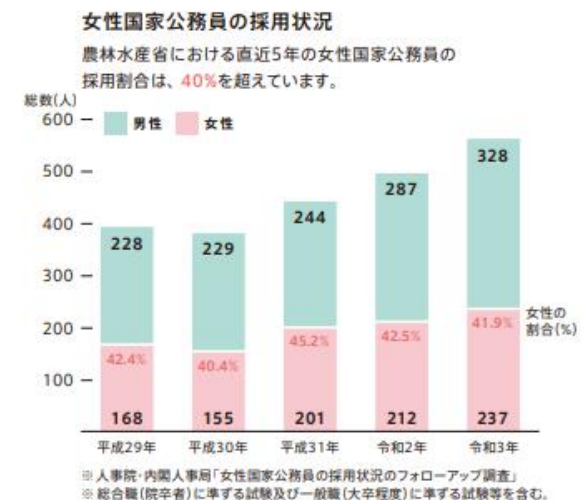
総務省	男：70.6%、女：100%
外務省	男：41.9%、女：96.8%
文科省	男：32.1%、女：86.7%
厚労省	男：92.5%、女：98.5%
経産省	男：67.0%、女：106.7%
国交省	男：66.6%、女：98.0%
財務省	男：80.5%、女：97.9%

出典：仕事と家庭の両立支援関係制度の利用状況調査（令和4年度）の結果について（人事院）

農林水産省に併設された保育園



農林水産省の採用者に占める女性の割合



農林水産省の魅力

大きな転換期にある社会課題（食・農林水産業）に
幅広いフィールドで確かな貢献ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・ 今、農林水産業は課題が山積している
- ・ ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・ いつの時代になっても、食と環境を守る仕事は決してなくなる

確かな貢献

- ・ 産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・ 食という身近なものに関われる
- ・ ピンチの今だからこそ、若手がチャレンジして変革を起こせる

幅広いフィールド

- ・ 1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・ 実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・ ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある

近畿農政局採用実績（一般職（大卒程度）行政）

一般職（大卒程度）行政区分の採用人数は増加傾向にあり、近畿農政局内に年齢の近い先輩職員がいることで、気軽に相談がしやすく働きやすい職場になっています。

一般職（大卒程度）行政		
採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
令和2年度	7 (4)	総務課、会計課、農村振興部
令和3年度	11 (2)	企画調整室、総務課、会計課、 経営・事業支援部、農村振興部
令和4年度	10 (4)	総務課、会計課、消費・安全部、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部
令和5年度	12 (7)	企画調整室、総務課、会計課、消費・安全部、 経営・事業支援部、農村振興部
令和6年度	15 (9)	

採用スケジュール（2024年度一般職試験大卒程度）

2/22（木）
～
3/25（月）

受験申込期間

6/2（日）

人事院第1次試験（筆記）

6/26（水）
9:00

官庁訪問予約受付開始
※詳細は各機関のHPをチェック！
第1次試験合格発表

7/2（火）
～
7/9（火）

官庁訪問
※土日祝日は実施しません
※詳細は各機関のHPをチェック！

7/10（水）
～
7/26（金）

人事院第2次試験（面接）
※官庁訪問禁止期間（7/7～28（日））

8/13（火）
9:00

内々定解禁
最終合格発表

10/1（火）
以降

内定

今日お話すること

1. 農林水産省が取り組む課題
2. 農林水産省のミッション
3. 農林水産省の職場環境
4. (参考) 近畿農政局若手職員紹介



中島 美瑛

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

公務員試験は筆記試験や面接練習など先が見えず、不安になることもあるかもしれません。私の場合は、面接が特に不安でした。

面接で話す内容を事前に考えておくことは重要ですが、それを一言一句暗記するのではなく、自分自身の言葉で話す練習をするのが個人的にはおすすめです。当日は面接官の皆さんが私の言葉に真摯に耳を傾けてくださったので、リラックスして挑むことが出来ました。無理に自分を飾らなくても、自分らしく話すことできっと熱意が伝わると思います…！皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしております。

～コミュニケーションを通したやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、会計課の調達係に所属しています。職場で普段使用しているプリンタや公用車、レンタカーの利用に関する支払業務など、主に局内で働く職員の方を支えるような事務一般を行っています。

入省前は、「会計課」といえば一人で黙々と書類に向き合って電卓を叩くというイメージがありました。ですが実際は、業務を行う上で課内の職員はもちろん、他部署の担当者や業者の方とコミュニケーションをとる機会も多く、やりがいを感じながら仕事をしています。

～行政から日本の食や農業を支えるという魅力～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

中学生の頃の修学旅行で北海道に行き、ファームステイ先の農家の方とお話した経験がきっかけで食や農業に関心を抱きました。そして、就職活動中に近畿農政局の説明会に参加し、行政の立場から日本の食や農業を支えるという選択肢に魅力を感じたため、志望しました。

また、説明会や座談会に参加した際、職員の皆さんがとても穏やかで優しく、「このような雰囲気の良い職場で働きたい」と考えたため、近畿農政局に就職することを決めました。

～職員が働きやすい環境が整っている～

Q3 職場環境について

上司や先輩方は優しく和やかな方ばかりで、毎日楽しく働きやすい環境だと感じています。周りの方に分からないことを質問すると、ご自身のこれまでの経験や知識を踏まえて丁寧に教えてくださり、日々勉強になります。

また、職場内では積極的に年次有給休暇を取得することが推奨されており、仕事とプライベートのどちらも充実させることが出来ています。



(2022年度時点)



平野 智司

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

筆記試験・面接対策等で忙しい中、ご覧いただきありがとうございます。就活中は、不安なことも多く大変だと思いますが、ここまで頑張ってきた皆様は、間違いなく成長していると思います！

休むことに不安を感じることもあると思いますが、やる気が起きないときは、休憩するのも1つの手です。やるときはやる、休む時は休むというメリハリをつけて最後まで諦めず頑張ってください！皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。

～幅広い業務を理解し、できることが増えていくやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は会計課調達係に所属しています。主な業務内容は、物品の購入や物品の管理に始まり、システムでの支払処理や業者対応など多岐に渡ります。業務の幅が広く、初めは分からないことが多かったのですが、徐々に仕事を理解し、できることが多くなっていくことに、非常にやりがいを感じております。

～日本の食文化を次の世代に残したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

学生時代から、日本の伝統的な食文化である「和食」について勉強しており、日本の食文化を次の世代に残したいという思いをもっていました。そこで、「食」にかかわる仕事且つ地元で働ける近畿農政局を志望しました。ほかにも、地方自治体などを受験していましたが、説明会や官庁訪問時の雰囲気惹かれ、近畿農政局に就職することを決めました。

～安心して仕事に取り組める環境で ワークライフバランスも充実～

Q3 職場環境について

分からないことや不安なことがあった場合は、上司の方々が分かるまで教えてくださるので、安心して仕事に取り組むことができます。また、残業はほとんどなく、退勤後の時間は有意義に使うことができます。また、休暇も好きなタイミングで取ることができ、私自身、趣味のサッカー観戦で全国を飛び回っています。ですので、推し活など自分の時間を確保したい方には良い環境だと思います。（ちなみに、私の推しはJリーグの京都サンガF.C.です！）



（2022年度時点）



目木 春佳

R4採用 生産部園芸特産課花き・特産係

皆さんへのメッセージ

就職活動中は、周囲の人と自分を比べて不安になることもあるかもしれません。でも、自分自身のことをよく知り、その考えに正直でいることが、自信を持つための秘訣なのではないかと思っています。そのため、就職活動に限らず様々な経験を積んで、やりたいことを探す時間をつくることも大切だと思います。

長期間、筆記対策と面接対策を平行して進めていかなくてはならない公務員試験は大変なことばかりですが、皆様の就職活動が悔いの残らない結果となるよう応援しています。

～様々な側面から花きの振興を支援～

Q1 今担当している業務は？

生産部園芸特産課で、近畿管内における花きの生産振興や消費拡大に関する業務を担当しています。

補助金関連の業務を中心に、花き需要喚起のための局内展示やホームページ等での情報発信、花き関連の協議会の運営など、様々な側面から花の振興を支援しています。また、国の事業で導入した施設や、優れた技術・知識を持った生産者のもとに出向き、意見交換や現地調査を行うこともあります。

現在の業務は生産関係をはじめ、小売や市場関係、他の行政機関など、幅広い立場の方々と関わりを持ったり意見を交えたりすることができ、勉強になることがとても多いです。

～農業を取り巻く環境を魅力的にし、幅広く貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

祖父が農業に携わっており、そこで高齢化による耕作放棄地の問題を知ったことが、近畿農政局に関心を持ったきっかけでした。近畿農政局の業務への理解を深めていくうちに、農業を取り巻く環境をもっと魅力あるものにするを通して、担い手問題だけでなく地域振興や文化・産業の発展などといったことにまで幅広く貢献できると知り、志望しました。

～様々な経験を積むことで 日々成長できる職場～

Q3 職場環境について

積極的に様々な経験をさせようとしてくださる職場だと思います。私は事務系で入省し、農業に関する専門知識は、ほとんどない状態からのスタートですが、所属・担当をまたいだ研修や意見交換、現地調査等を通して、少しずつ分かることも増えてきたと感じています。日常業務においても、分からないことや初めて取り組むことなど、よく気にかけていただいております。

また、テレワークや時差出勤などの制度が浸透していて、実際に多くの人が利用していることを入省してから知って驚きました。人それぞれの生活にあった働き方ができる環境が整っていると思います。



(2022年度時点)



稲垣 諒太

R4採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

私は、できるだけ多く説明会に参加することが大切ではないかと考えています。私は、行政職のほかに公安職や独立行政法人、地方自治体など様々な官庁の説明会に参加しました。その中で職員さんとの会話や業務説明で興味のある事柄かどうかを確かめ、気になる官庁は何度も説明会に参加し知識を深めました。

また、様々な官庁を回ることによって知識が増え、面接のときに話す種にもなりますし、色々回ったうえで「ここに行きたい。」という話もできますのでお勧めです。

筆記試験や面接試験の勉強、志望官庁等の説明会への参加で大変な毎日かと思いますが、体調に気を付けて最後まで頑張ってください。

～本局から現場の用地補償業務を支える～

Q1 今担当している業務は？

現在は局の用地課用地係に勤務しており、業務内容は、土地の買収や補償（用地補償）事務の流れをまとめた要領・細則の改正作業、管内国営事業所において前年度実施された用地補償業務の実績を取りまとめ本省へ報告する作業、事業所で行う土地の買収・使用価格が適正に算定されているかの確認作業などの業務を地区担当の専門官や係長と協力して行っています。

局の用地課では、土地の買収・使用に直接関わることはありませんが、前述のように確認・助言をする形で間接的に関わっており、助言したことが納得されて、採用された際にはやりがいを感じます。

～農業インフラ施設に携わり、食糧問題解決に関わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

元々インフラ関連に軸を決め、就職活動を始めました。調べる中で農政局はダムや農業用水路といった農業インフラ施設に携われる点や、農業農村整備事業を通じて強い農業生産基盤を作り、日本の食糧問題解決に関わりたいと思い志望しました。

また祖父が食糧庁の職員だったことや、実家が農業をしていたこともあり農業が身近な存在だったことも理由の一つです。

配属先によっては行政系採用者であっても現場に出ることがあるため、内勤と外勤の両方をしたいという方には魅力的な職場なのではないかと思います。

～明るい雰囲気ですぐに疑問を解消できる環境～

Q3 職場環境について

課内の雰囲気については、皆さん明るい方が多く、よく話しかけてくださいます。そのため質問もしやすく、すぐに疑問を解消できる環境だと思います。特に入省直後は疑問を解消する方法すら分からなかったため、すぐに疑問を解消できる職場には、非常に助かっています。

入省までは農政局の仕事柄、職員は農業関係者が多いイメージを抱いていましたが、私たちの年代では農業関係者は少ない状況ですので、農家でないからだめだというわけではないのでご安心ください。



（2022年度時点）



笈ケ平 将大

R5採用 総務課支給係

皆さんへのメッセージ

公務員試験は長い期間をかけて対策しなければならず、苦しい時間も多いと思います。私は、長丁場な試験だからこそ、友達とご飯を食べに行くなどのリラックスする時間を月に数回ほど設けていました。みなさんも行き詰ってしまったときは、ぜひリラックスする時間をつくってみてください。気持ちがすっきりして、勉強や面接対策に集中できると思いますよ。

最後は自分自身の力を信じてください。これまで培ってきた実力を十分に発揮できれば、合格や内定を掴み取ることができると思います！みなさんと一緒に働くことができる日を心待ちにしております。

～職員の生活を支える給与事務～

Q1 今担当している業務は？

給与支給事務を担当しています。職員の給与計算は、基本的にシステム上で行われます。そのシステムの計算が適切に行われているかを確認するのが、私の主な仕事です。

職員の生活を支える給与を期日までに支払うという非常に重要な仕事を任されているため、常に緊張感を持ちながら業務に取り組んでいます。給与の計算方法や手当の制度などは、多岐にわたるため、学ばなければならないことも多く大変ですが、その分、できることも徐々に増えていくので自分自身の成長を感じられます。また、給与が支給日に口座に振り込まれた際には、やりがいも感じられます。

～日本の農業を支え、国民生活の源である「食」を守りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、日本の農業を支えることで、国民の生命の源である「食」を守りたいと思ったからです。教育実習で、「日本の農業」という分野を扱ったことをきっかけに、日本の農業が抱える様々な課題を知りました。近畿農政局では、日本の農業の課題に対して国民の「食」を守るために、多様な政策からのアプローチを行っており、そういった政策や業務に魅力を感じました。

また、説明会や座談会での温かい雰囲気が良かったというの也有ります。実際、入省してみてからもそのギャップは全く感じなく、いい環境下で働くことができます。

～プライベートと仕事を両立できる環境～

Q3 職場環境について

わからないことがあれば、上司の方々はすぐに教えてくださるので、安心して業務に取り組むことができます。

休暇については、積極的な取得が推進されていますので、とても取りやすいです。私事で恐縮ですが、12月には、2日間の年休を使い、ディズニーリゾートに行ってきました。

また、残業も繁忙期以外はほとんどないため、プライベートと仕事が非常に両立しやすく、とても働きやすい職場だと思います。



(2023年度時点)



佐海 和也

R5採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

公務員試験は民間就職と比較して就職先が決まる時期が遅いので、精神的にしんどいと思います。筆記試験が終わったら、面接試験がすぐ始まりあまり対策する時間もないと思います。

そこで、自分がどんな仕事をしたいのか、なんのために公務員を目指したのかについて考え直し、それを元にたくさんある省庁や自治体の中から絞って受験することで対策する時間の短縮にもなりますし、軸がしっかりし志望理由も深くなり思いや熱意が伝わりやすくなると思います。その中で近畿農政局を選んでくださった皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。体調に気を付けて頑張ってください！

～日々苦戦しながらも、やりがいのある仕事～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、会計課の調達係に所属しています。業務内容は職場で普段使用している複合機や公用車、パソコンの利用に関する支払業務や次年度に向けた年間契約業務など、主に局内で働く職員の方を支えるような事務一般を行っています。

契約業務を行うにあたって様々な業者の人と関わり、契約した内容の支払い事務の中では多くの局内の人たちと関わるので、仕様書をこうしたら業者の人たちに内容が伝わりやすくなるだとか、エクセルの関数をこう組みなおしたら支払い事務がスムーズになるだとか、前例踏襲ではなかなかうまくいかない点に日々苦戦しながらも、やりがいをもって業務に臨むことができています。

～強い国内農業を創造するために、農業を魅力ある職業にしたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学での専攻、私の祖父が農家ということもあり農業を身近に感じ、強い国内農業を創造するために農業を魅力のある職業にしていきたいと考えたのが、近畿農政局を志望した1番の理由です。

個別相談会や官庁訪問で感じた近畿農政局の雰囲気になれ、とても働きやすそうと感じたのが近畿農政局に就職する決め手となりました。正直、人事の人たちは話しやすい人が多いだろうなと思っていたので、実際の現場は期待通りにはいかないのかなと思っていたのですが、人事以外の人たちも和やかで話しやすい人ばかりで、驚きました。

～経験をもとに丁寧に教えてくれる～

Q3 職場環境について

上司や先輩方は優しく和やかな方ばかりで、毎日楽しく働きやすい環境だと感じています。社会人に対する不安などがかなりあったのですが、その不安も気づいたらなくなっていました。上司や先輩に分からないことや困っていることを相談すると、ご自身のこれまでの経験や知識を踏まえて丁寧に教えてくださり、日々勉強になります。

自分のしている業務は月単位、年単位で大まかにすべき業務が決まっていて、忙しくなるタイミングがわかりやすいです。そのおかげで、前もって休暇予定を組みやすく、さらに職場内では積極的に年次有給休暇を取得することが推奨されているので、プライベートも充実させることができています。



(2023年度時点)



中野 玲奈

R5採用 農村振興部農村計画課直接支払係

皆さんへのメッセージ

私は面接試験が特に不安でしたが、面接は面接官と会話ができる貴重な機会だと思って、丸暗記ではなく、伝えたい思いを自分の中で明確にした上で、自分の言葉で答えるようにしていました。また、友達や周りの人と面接練習をたくさんし、面接に慣れるようにしていました。自分では意図が伝わっている文脈でも他人には伝わらないこともあるので、そのあたりに気づくこともでき、おすすめです。

筆記試験対策との平行になり、時間が足りないとは思いますが、悔いが残らないよう、気になる官庁や企業の説明会・面接には積極的に参加してみてください！その上で近畿農政局を選んでくださった皆様と一緒に働くことができる日を楽しみにしています！

～現地を見て気づく、課題やニーズ～

Q1 今担当している業務は？

私は、傾斜等により農業の生産条件が不利な「中山間地域」における農業生産活動の継続を支援する交付金を担当しており、近畿管内の府県から提出される書類の内容確認やその後の事務手続き、府県担当者からの質問への回答等の業務をしています。質問等にはできる限りの対応をすることを心掛けており、担当者から「ありがとう」と言われるとやりがいを感じますし、更に頑張ろうという気持ちになります。

また、交付金を活用している地域等へ出向き、意見交換をする場合もあります。現地を見ることで、農政局で働いているだけでは分からなかった、中山間地域の現状や課題・ニーズなどが分かったりもするので、その点が出張の面白い点だと思います。

～国家公務員の立場から地域活性化に貢献～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は「地域の活性化に貢献できる仕事がしたい」と考えていて、最初は、国民の方々に近い市役所などを中心にみていました。ですが、近畿農政局の説明会に参加し、農泊の推進などを通じて国家公務員という立場からでも地域に貢献できると知り、農政局に興味を持ちました。その後、個別相談会や官庁訪問に参加し、近畿農政局の職員の方々と話をしていく中で、職場の雰囲気がとてもよいと感じ、自分も近畿農政局で人や地域のために働きたいと思い、近畿農政局を志望しました。

～自分次第で色々なことに挑戦できる環境～

Q3 職場環境について

職場の方々はとても優しく、上司や同じ班の人にも質問や相談がとてもしやすいです。入省前は、上司の方に指示を受けて作業をするという仕事が多いのかなと思っていたのですが、実際に働いてみると、私の意見やアイデアを求められる機会も多く驚きました。課や部の垣根を越えた研修や働く機会もあったりするので、自分次第で色々なことに挑戦できる環境なのではないかと思います。

また、テレワークや休暇も非常に取りやすい環境です。休暇は1時間単位でもとれるので少し早めに仕事を終えてゆっくりすることもできます。（私はライブやフェスに行くのが好きなので1日休みや数時間休みをいただいてライブに行ったりしています！）



(2023年度時点)



畑田 亜美

R5採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

筆記試験に向けて勉強するにあたって科目も多く、不安になることもあるかと思います。

私は勉強する時は同じく公務員試験を受ける仲間と一緒に勉強し、お昼休憩の時に色々な話をしていました。一人で勉強するのいいですが、情報を交換できる仲間がいると心強いので公務員講座や官庁の説明会などでぜひ仲間を見つけてみてください。二次試験対策においては仲間や大学のキャリアセンターの人にエントリーシートを見てもらったり、模擬面接をしてもらったりすることができ、本番への自信に繋がると思います。

長い勉強期間の中で、偶には休憩日を設けることも大切だと思います。悔いのないように最後まで頑張ってください。

～今まで触れてこなかった知識がわかるようになるやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は用地課で主に管内事業（務）所への指導及び権利保全対策を行っています。事業（務）所へは半年に1回書類の確認をしに行ったり、事業所からあがってくる工事のために借りる土地の価格算定方法が適正に行われているか確認したりしています。権利保全対策では農林水産省名義の地上権等の現状を確認するために法務局へ書類を申請し、それに基づいて一覧表を更新する作業等を行っています。

用地課で行う業務は今まで触れてこなかった知識ばかりです。それが少しずつわかるようになり着実に業務に貢献できるようになってきていることにやりがいを感じます。また、様々な前歴事業の内容を教えてもらうことも面白いです。

～現場の近くで、より良い農業基盤づくりに貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は局内で仕事をするだけではなく、実際に現場に行くことができる仕事がしたいと思っていました。各官庁の業務説明会等に行く中で、農政局では実際に事業所で現場業務を行うこともできると知りました。現場に近いところで農村整備事業に携わり、より良い農業基盤づくりに貢献したいと思い志望しました。

私は入省するまで農業関係には全く触れたことがありませんでしたが、事業実施現場を見ることで農業の現状や事業内容をよく理解できます。現場に出ることに興味がある方にも、農政局の業務内容は魅力的だと思います。

～普段から関わりを持つことで 業務にも取り組みやすい～

Q3 職場環境について

用地課内は話好きな方も多く、賑やかなことが多いです。誰にでも話しかけやすい雰囲気なので、わからないことはすぐに上司に尋ねることができます。事業所にいる前任者の方からも電話や研修で会った時等に様々なことを教えていただいています。

業務以外でも同期とお昼ご飯を食べたり、農村振興部内の若手で技術系の人とも飲み会を行ったりと楽しく過ごしています。普段から関わりを持っていることで、業務を共に行うときにも協力して取り組みやすい体系ができています。実際に1年目でも事業（務）所の職員や局外の同期とも面識があります。



(2023年度時点)

御覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HPに掲載しています。



- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

御不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。